

## 平成28年度滋賀県がん診療連携協議会・第2回診療支援部会 議事概要

- 日 時 平成28年10月18日(火) 18時00分～19時05分
- 場 所 滋賀医科大学医学部附属病院 4階 第4会議室
- 出席者 谷眞至(滋賀医科大学医学部附属病院)  
南部卓三(公立甲賀病院)  
林嘉彦(市立長浜病院)  
小泉聡(高島市民病院)  
青木悦雄(大津市民病院)  
重松忠(済生会滋賀県病院)  
石川博己(近江八幡市立総合医療センター)  
駒井康伸(長浜赤十字病院)  
目片英治(東近江総合医療センター)  
重永博(滋賀県医師会)  
松井泰成(滋賀県歯科医師会)  
小杉奈緒(滋賀県薬剤師会)  
吉村雅寛(滋賀県放射線技師会)  
寺田智祐(滋賀県病院薬剤師会)  
山本伸子(滋賀県歯科衛生士会)  
芥田敬三(滋賀県放射線治療連絡協議会)  
野坂明子(滋賀県健康医療福祉部)  
嶋田宏之(滋賀県立成人病センター)
- 欠席者 土井隆一郎(大津赤十字病院)  
川上賢三(滋賀県立成人病センター)  
來住優輝(彦根市立病院)  
卜部諭(草津総合病院)  
三上房枝(滋賀県看護協会)  
醍醐弥太郎(滋賀医科大学医学部附属病院)
- オブザーバー 藤田陽子、冨田勢津子、奥井さよ子(滋賀県がん患者団体連絡協議会)

(敬称略)

## 1. 報告

部会長から、前回の部会（平成28年6月21日開催）の議事録について、ご意見等があれば事務局までご連絡願いたいとの依頼があった。

## 2. 議題

### (1) 平成28年度の取組について

#### 1) 先進的（高度）ながん医療について（資料1-1、資料1-2）

部会長から、「がん情報しが」に掲載している拠点病院、支援病院が実施している「先進的（高度）ながん医療」について、情報の更新をするため、各病院に照会して回答されたものを医療技術別、医療機関別に取りまとめたものであるとの説明があり、了承された。

#### 2) 治験等の実施状況について（資料2-1、資料2-2）

部会長から、本年度第1回の部会で調査することとしたもので、各拠点病院、支援病院に照会して回答されたものを取りまとめたとの説明があった。初の試みでもあるので、お気づきの点があれば、事務局までご連絡されたいとの説明があった。

#### 3) 「がん診療連携拠点病院等のがん診療に関する機能分担の評価の検討」、「がん医療の質の向上に向けたアウトカム評価の検討」について

部会長から、本年度第1回の部会で継続的に検討することとなっていたとの説明があり、引き続き意見交換を行った。

- ・アウトカムについては、生存率や患者さんのQOLが目安になると思われるが、生存率を把握しているがん登録推進部会等の状況はどうか。
- ・がん登録推進部会でも意見交換が行われているが、病院別に数値を出すことについては慎重な意見があり、また、部会で判断を下すこと自体も困難であるとの意見が出されている。国も何らかの形で公表するとの方向になっているが、例えば、がん対策の第1期と第2期の比較といった大まかな形になるのではないか。
- ・数値については、多くの切り口があり慎重な対応が必要であるが、年齢を踏まえることは重要である。
- ・各医療圏で年齢別の人口構成も異なっているという背景もある。
- ・各病院が、手術実績などの数値を自発的に公開しているが、各病院により判断されている状態である。
- ・まずは県で公開する統一的形式を定めれば数値は出てくるので、そうすれば評価というプロセスに進むのではないか。
- ・公開は、ホームページでもされることになると思うが、患者視点の情報であることが肝要である。
- ・かかりつけ医が、患者さんから尋ねられたときに説明できるような情報を病院サイトから出していただければ助かるし、それに先立ち、どのような指標が必要なのかを確認しておく必要があるのではないかと思う。
- ・そもそも、統一的形式が定まるかが不透明な状態である。

- ・数値には患者さんを誘導する力があることを認識しておく必要がある。患者さんが医療圏を超えて診療実績の多いところばかり集中してしまうといったことが危惧される。
- ・公開の形を取らず、まずは、院内でのフィードバックに用いては如何か。
- ・患者サイドとしては、自分ががんになったと知った時、まず自分がどういった状態にあるのかということホームページなどで懸命に調べる。しかし、見つけ出した情報が、患者自身の年齢等も踏まえていないもので、しかも心理的に辛い状況では、それで判断して流されてしまうこともあろうかと思う。そういったことは大変危険であると思うので、難しいとは思いますが、年齢等を踏まえた統一的な数値や指標があれば正しい判断ができるのではないかと思います。
- ・標準治療をどれだけ行っているかといった指標もあればよいのではないかと。
- ・言葉の問題でもあるが、標準治療は普通の治療で、治験等を行っていることが優れていると誤解されているように思う。標準治療というのは科学的な根拠に基づいた治療であるといった点を今一度啓発していくことが必要なのではないかと。

部会長から、たくさんの意見を出していただいたが引き続き検討していきたいとの発言があった。

#### 4) 診療支援推進の仕組みの検討等について

部会長から、診療支援推進の仕組みに関する一つの検討材料として、各病院にセカンドオピニオンの件数を調査してはどうかとの発言があり、引き続き意見交換を行った。

- ・セカンドオピニオンについては、相談支援部会で調査が行われており、また、拠点病院に関しては現況報告により報告されている。
- ・患者サイドとしては、セカンドオピニオンの件数を示されても、数値を見るだけで終わると思われる。主治医とのコミュニケーションが取れていればいる程、セカンドオピニオンを得にくい状況でもあるので、経験者の感想などの情報があると助かる。
- ・セカンドオピニオンを数値として追求していくと、カルテの確認など事務的に膨大な作業を伴う。
- ・セカンドオピニオンを求める患者さんには、何らかの事情があると思うが、セカンドオピニオンを追い求め過ぎて、時間的に治療の機会を逸する可能性もある。
- ・最近では、医師側から患者さんに、セカンドオピニオンについて案内するようになってきている。
- ・「がん情報しが」には、患者の声が公開されているが、セカンドオピニオンについても掲載してよいのではないかと。
- ・患者サロンでも、セカンドオピニオンが話題になるが、セカンドオピニオンを得たら、主治医の許に戻るように伝えている。

部会長から、先程のアウトカム評価の検討も含め、たくさんの意見を出していただいたが引き続き検討していきたいとの発言があった。

#### 5) 各団体の取組について（資料3）

各団体から、本年度の取組について報告があった。

（滋賀県医師会）

- ・他団体から依頼された研修会等を積極的に後援する。
- ・「がん関連」の研修会等について、滋賀県医師会報に掲載して会員に周知するので、情報提供願いたい。
- ・「5大がん地域連携パス」を有効利用し、病診連携をスムーズに行う。

（滋賀県歯科医師会）

- ・県委託事業「歯科医師等派遣委託事業」により、歯科の無い病院へ地元歯科医師・歯科衛生士を派遣し、入院患者の口腔機能管理を行っている。
- ・口腔がん検診の啓発のための県民公開講座および歯科相談を実施している。
- ・9月に、国立がん研究センター・日本歯科医師会によって作成された、がん医科歯科連携に関する講義DVDを用いた歯科関係者対象の講習会を行った。

「歯科医師等派遣委託事業」について質問があり、済生会滋賀県病院に歯科医師等が派遣されていること、予算上の理由から平成28年度で事業が終了する予定であること、また、京都府での派遣の事例紹介も交え、継続に期待を寄せている旨の発言があった。

（滋賀県薬剤師会）

- ・滋賀県薬剤師会認定在宅ホスピス薬剤師のフォローアップを実施。
- ・医療用品共有システム及び在宅医療推進のための薬局機能情報サイトを継続運用。
- ・滋賀医大や成人病センター等で行われるがん関連研修会に参画。
- ・抗がん剤および無菌調製研修会については、週1回とこまめに実施している。

（滋賀県放射線技師会）

- ・滋賀県放射線技師会学術研修会を開催しているが、がん関係としては、第3回研修会で、平成29年1月21日（土）、ピアザ淡海において、テーマを「「がん」発見、治療、その後まで」として開催を予定している。

（滋賀県病院薬剤師会）

- ・前年度に引き続き、セミナーや講演会を実施し、がん薬物療法の基礎情報や最新情報を継続的に提供する。
- ・病院薬剤師を対象にした症例検討会をさらに充実させ、病院間の相互交流とがんに関わる薬剤師の臨床能力の充実をさらに進める。
- ・昨年度から、滋賀県がん啓発活動に参加しており、今年度も引き続き、がん薬物療法に関する知識や病院薬剤師の役割等の情報提供を行っている。

（滋賀県歯科衛生士会）

- ・例年実施しているがんに関する研修会としては、11月13日に、がんに関する薬、

レジメンも含めて、をテーマに開催を予定している。

- ・「周術期口腔機能管理」について人材育成プログラムを作成。
- ・歯科医師会から説明された県委託事業「歯科医師等派遣委託事業」にも協力しており、派遣に相応しい人材育成を行っている。

(滋賀県放射線治療連絡協議会)

- ・連絡協議会および勉強会については、夏期は7月に済生会滋賀県病院において、冬期については1月に滋賀医大での開催を予定している。
- ・滋賀県放射線治療連絡協議会のホームページについて、リンクを張りつつ積極的な利用と内容の充実に努めたい。

- 6) HPの拡充、メーリングリストの利用によるネットワークの構築について(資料4)  
部会長から、県のホームページ「がん情報しが」のアクセス状況について説明があり、部会員所属団体でホームページを有している場合、同サイトへリンクを張っていただくよう協力依頼があった。また、診療支援部会メーリングリストについても活用の要請があった。

### (3) 診療支援部会の取り組み評価(中間評価)について(資料5-1、2)

部会長から、アクションプランで示している事項について説明があり、各事項についての進捗状況(A~D)を確認した。

先進的(高度)ながん医療については情報の更新を行ったことから(A)とした。

がん診療連携拠点病院等のがん診療に関する機能分担の評価の検討、がん医療の質の向上に向けたアウトカム評価の検討については、活発に意見交換を交わしたことから(A)とした。

診療支援推進の仕組みの検討等については、こちらも活発に意見交換を行ったが、歯科医師等派遣において課題的なことも見受けたので(B)に留めておくこととした。

各団体の取組を把握していくことについては情報共有を行ったことから(A)とした。

HPの拡充、メーリングリストの利用によるネットワークの構築については、掲載情報「先進的(高度)ながん医療」の情報更新を行ったが、「がん情報しが」のアクセス件数は伸びつつも、余地も込めて(B)に留め、総合的には(B)評価とした。

また、PDCAチェックリストについては、Planとして「がん情報サイトの閲覧回数」、Doとして「サイトの充実」としているが、これに関して、今回の部会で、「がん情報しが」HPに掲載している先進的(高度)ながん医療の情報更新を図ったことが確認された。

### (4) その他

がん患者団体連絡協議会から、

- ・11月26日に、公開講座「がんと診断された時からの緩和ケア」と題して、緩和ケアについて終末期のこととされていることを払拭すべく、また、滋賀県北部での開催要望に応じて米原市で開催するので、部会員が所属される団体でも、ご案内いただきたいとの依頼があった。

- ・県内9病院で開催しているがん患者サロンに関して、現在、第6期のピアサポータ

を11月の最終研修に向けて育成しており、引き続き応援等いただきたいとの依頼があった。

・今回も、議論において、がん患者の声を聞いていただき有り難く感じている。治験等も多く実施されていることが確認できた。また、アウトカムの議論に関しては、難しいと思われるが、患者満足度も踏まえた数値が出ればと感じている。

以上

**【配布資料】**

診療支援部会 部会員名簿

前回議事概要（平成28年度 第1回診療支援部会 6月21日開催分）

（資料1-1）先進的（高度）ながん医療について（医療技術別）

（資料1-2）先進的（高度）ながん医療について（病院別）

（資料2-1）がん診療に関する治験等について

（資料2-2）がん診療に関する治験等について（集計）

（資料3）平成28年度 各団体取組予定

（資料4）「がん情報しが」のアクセス状況

（資料5-1）滋賀県がん診療連携協議会アクションプランシート（診療支援部会）

（資料5-2）平成28年度滋賀県がん診療連携協議会PDCAチェックリスト（診療支援部会）